



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第64回「日本語の未来」

【とりあえずビール】

仲のよい友達が集まって食事をするのは楽しい。「このレストランは最近とても評判らしいよ」「お客様、お飲み物は何になさいます?」「そうね、とりあえずビールだ。」

この「とりあえずビール」というのは決まり文句のようにになっている。ところが、意外に難しい日本語である。それを指摘してくれたのは私のスウェーデンの友人、マーチン・ニルソン氏である。彼は5年間にわたり日本に滞在して、東京大学で工学博士の学位を取得した。もちろん日本語は得意中の得意のはずだ。

そのニルソン氏が、ある日友人の家を訪問した。食事に招かれたのである。そこで飲み物の好みを聞かれた彼は、すかさず「とりあえずビール」と答える。これが変な日本語だと言われてしまった。どうにも不思議だ。レストランで正しい日本語でも、友人の家で使ってはいけないのか。

友人の家で「とりあえずビール」と答えるのは厚かましいのか、それとも親しい表現として許されるのか、私にもよくわからない。微妙なところだ。ただし、日本語の達人であるニルソン氏が当惑したのは事実である。



【言外のルール】

そのニルソン氏は、日本人の理解できない行動をもう一つ教えてくれた。私は京都大学教授の佐藤雅彦先生たちと、ニルソン氏をストックホルム郊外の研究所に訪ねたことがある。そのときに、我々を受付に迎えにきた彼はネクタイを締めていた。これはスウェーデンの研究所では珍しい風景である。

「何で今日はネクタイなんか締めているのですか?」「何か特別のこともあるのかしら」。ニルソン氏は答えていわく、「えーと、特別と言えば特別の日ですよ。何しろ日本から来客があるのですからね。つまり、あなたがたのことです。日本人はよくネクタイを締めていますから、私はそれに合わせたつもりです。」

ところが、日本から訪ねていった我々のグループは、誰もその日はネクタイを締めていなかった。ニルソン氏の不思議が増えたのである。日本人はどういう場合にネクタイを締め、どんなときにノーネクタイなのか。

【ユニバーサルな日本語】

日本語はやさしいのか、難しいのか。大方の理解では難しい言語になると思うが、一方で日本語には優れた特徴がある。日本語の文章の中では、たとえば「インターネット」とわざわざカタカナで書かなくても、「Internet」のように英単語を日本語に

混ぜて書いてもよい。英語のスペルを書いても日本語の文章になる。好みによって独語でも仏語でも、ギリシャ語でもロシア語でも何を混ぜても構わない。

この逆は成立しない。英語の文章の中に日本語を混ぜると変になる。中国語ではニュートンでもニューヨークでも漢字で書く。ハングルでは漢字を使うことはあるが、外来語はハングル表記だ。さらに日本語の特徴として、使っている人が1億人以上もいる。しかも、ほとんどの分野で高等教育の水準まで日本語で学べる。学位論文も日本語で書けばいい。日本に住んでいるとあたりまえのようだが、我々は確実に日本語の恩恵に浴している。

【日本語には未来形がない?】

日本語にもいくつかの弱点がある。私が一番深刻だと思うのは、未来形の表現が貧弱なことだ。たとえば「明日は雨が降るだろう」というのは助動詞の「う」が末尾にある。この「う」には未来の意味もあるが、推量でもある。つまり「雨が降るだろう」というのは、話し手の推量であると解釈できる。

未来のことを語ると推量になってしまう。つまり未来の表現が話者と分離できない。もちろん、日本語に限らず、どのような言語でも過去形の表現が豊富にあって、未来形は貧弱である。しかし、そのなかでも日本語の未来形は弱い。金田一春彦先生は、日本語には未来形がない、という指摘をしていた。

未来のことを議論するのは難しい。しかも日本語では客観的に未来を表現することがとても難しい。これは日本語の弱点である。

【いよいよ試練のとき】

世の中はマルチメディア時代だ。しかし言語から離れることはできない。音声は話し言葉を使う。画像情報もインデックスは文字に頼っている。

人間の情報処理にとって、言語ははなはだ重要な役割を果たしている。大人は言語によって情報の大幅な圧縮を行っている。12歳以下の子供は言語をマスターする途中の段階にある。いずれにしても、人間社会のコミュニケーションが、言語に大きく依存していることは間違いない。

インターネットは、世界的な規模で人間の交流を盛んにしている。ただし情報通信が言語を用いていることには、もっと注意を払うべきだ。我々はインターネット上でも日本語を使っている。地球の中には、自国語ではインターネットを楽しめない人々もいる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp